

メディア研究部会報告

提案者	愛知県立中川商業高等学校	石川 紘基	教諭
	愛知県立南陽高等学校	渡辺 力樹	教諭
助言者	愛知県総合教育センター情報システム研究室	中元 大生	研究指導主事
司会者	中京大学附属中京高等学校	脇田 俊 幸	
記録・運営	愛知県立中川商業高等学校	山田 万寿美	
	愛知県立松平高等学校	鈴木 友佳子	

メディア研究部会では、提案1で「NHK for School『昔話法廷』」を活用した授業実践と「アクティブ・ラーニング」、提案2で「視聴覚教材を活用した授業準備・授業展開に関する提案」の発表が行われた。

【提案1】

課題研究「プレゼンテーション研究」において、NHK for School を活用することで、生徒の「考える力」を育み、学習意欲の向上に繋がるのではないかと考え、裁判員裁判を体験しながら授業を実施する取り組みについて報告された。

具体的には、NHK for School『昔話法廷』に用意されている指導用資料・ワークシートを活用しながら授業を展開する。そこから一歩進み、自分が考えたことや主張をPower Point でまとめて全員に発表させた後、再度自分の判決を示して多数決で有罪か無罪かを決めていく。最後にアンケートを実施し、裁判員制度の理解・プレゼンテーションの作成が上手くできたかを確認するといった授業展開の実践例が報告された。自身の「気づき」「考えたこと」を他者に説得力を持って伝える力を育むことができ、能動的な学習に繋がったと考えられる。



【提案2】

番組を参考に教員が効果的に指導を行う方策を探り、そのうえで受信のみではなく生徒が発信する放送教育の可能性について発表が行われた。

「ラーニングピラミッド」を例にあげ、テレビ番組を補助教材として有効活用することにより、授業の質を上げ、生徒に学習の意義を実感させることができるのではないかと提案がされた。実践案として「NHK 高校講座」「ガイアの夜明け」、プログラミング教育という視点から「ピタゴラスイッチ」の活用などがあげられた。また、放送を受信するだけでなく発信することで、「受信オンリーの放送教育」から「相互発信により教えあう放送教育」に転換することが視聴覚教育の可能性を広げ、未来を拓く学びの場の創造に繋がるとの提言であった。



【助言】

中元大生指導主事は、ICT機器を適切な場面で効果的に活用することで「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現につなげていくことが大切であり、生徒に考える力を身につけさせ、学習意欲の向上に繋げることが重要であるという助言をいただいた。

